

Q & A コーナー 4

耐性菌対策に関する質問

メディカルスタッフのための感染対策セミナー
事務局 Q&A担当

元石和世、中川祐子

質問 1

ESBL産生菌による尿路感染患者の共用トイレ使用後にアルコール消毒をしています。他に有効な対策はありますか。再検査の期間・方法はどのようにしていますか。浴槽に入ってもよいか。その時、消毒は必要か？

- ・ 耐性菌は消毒薬や除菌剤が効きやすいため、アルコールに限らず、市販の環境除菌剤も効果的です。
- ・ トイレ便座や洗浄パネルの汚染は伝搬リスクは高いため、耐性菌保菌者の使用後のトイレは定期的に消毒・除菌を行ってください。

(回答続き)

・陰性、陽性に一喜一憂せず、入院（入所）期間中は、ずっと保菌者として対応しておくことがいいでしょう。抗菌薬を使用する環境では、陰性化した菌が再陽性となることは、よくあります。従って頻回の検査は不要です。隔離解除の基準に対する検査であれば、施設の基準に従ってください。

・入浴はどんどんしましょう。皮膚菌量の減少は伝搬リスクの減少になります。浴槽やタイルは、熱めのお湯で洗い流せば十分です。尿や便保菌者は、下着の耐性菌が付いていますので、下着をおいた脱衣かごや棚は、簡単に清拭消毒しておきましょう

(回答伊藤先生)

質問 2

耐性菌保菌者に対する対策を入所者全員に行うのには限界があります。保菌レベルの方にはどのような対応が理想でしょうか。

回答⇒



(回答⇒)

・保菌とは、感染症状がない（発病していない）が排菌している状況です。

・便や尿の保菌者は、便や尿の処理を介して、職員や他の患者さんに伝搬します

・接触感染対策を行うことが、原則です。

（ポイント）処置内容で注意項目が異なります

・便・尿保菌者⇒オムツ交換や尿処理では、手袋・エプロンが必須

・咽頭保菌者⇒口腔ケアや吸引時に注意

・皮膚保菌者⇒積極的に入浴することで、菌量コントロールが出来ます（回答 伊藤先生）

質問 3

リハビリが必要な患者の痰から、カルバペネム耐性菌が検出されました。
。必要な対策を教えてください。

- ・他の耐性菌対策と変わりませんが、CREは気道から分離することも多いため、口腔内・気管内吸引等で飛沫曝露の可能性があれば以下の対応を行います。
- 個室対応、患者・職員は病室入退室時の手洗い
- ケアはガウンテクニック
- 出棟リハビリは可能であるが、マスク着用し、他の患者とは2M離れた環境でリハビリを行う。

質問4

入院後に感染症が判明した時、
持込か新規発生なのか、入院日より何日経過までを
持込としていますか？

施設の取り決めでよいと考えます

・耐性菌の場合は、一般的にha、入院24時間以内、あるいは48時間以内の分離菌を持ち込みと判断する場合があります。

・ウイルスの場合は、潜伏期によりますが、概ね24時間以内の発症は持ち込みでよいと考えます。ただし、複数同時の発病、集団食中毒などは院内発生と考えた方がいいでしょう。（回答伊藤先生）



質問5

保菌と感染について教えてください

例えばMRSAが入院後1か月に検出された場合

- ① 前病院情報不明。過去データなし、抗MRSA薬の使用なしという場合は、新規か不明かどう判断すればよいですか？
- ② 便ではない検体から*E. faecium*が検出され、VCMのMIC4以上の場合はVRE遺伝子検査をした方がよいですか？

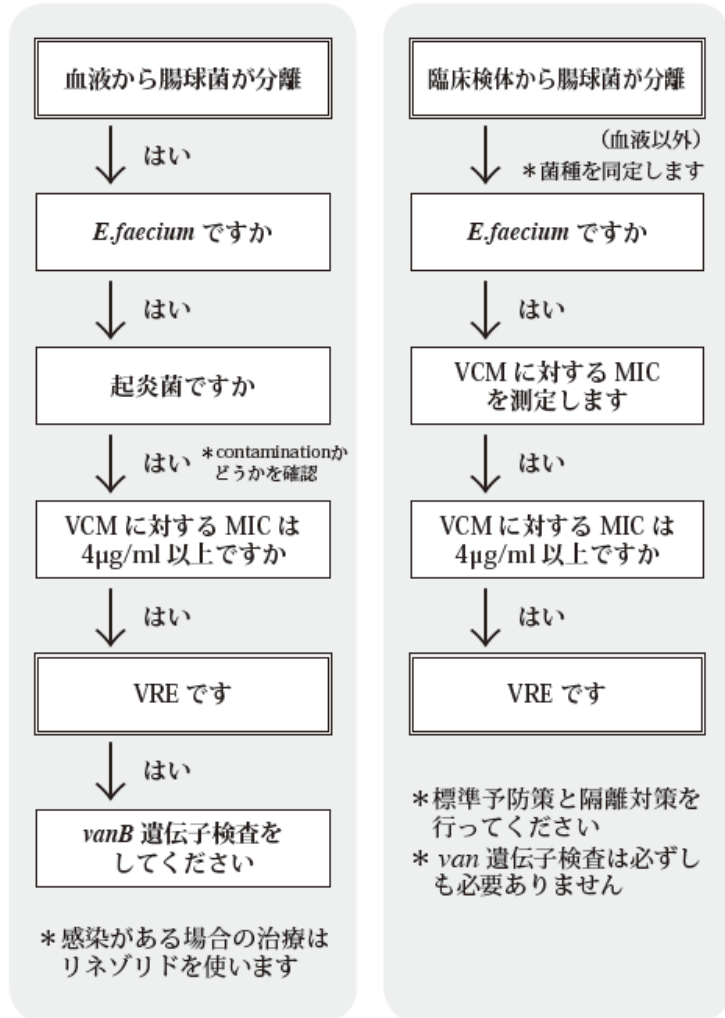
(回答①)

・ 1ヶ月入院している患者で前医療機関での保菌歴が不明である場合は、分離したMRSAは院内での獲得した菌と考えるのが一般的です。ただし、貴院で過去においてMRSA分離患者がゼロであれば持ち込みかかもしれません。(回答 伊藤先生)

(回答②)

- ・北九州地域では、*E. faecium*に対するVCMのMIC値 $\geq 4 \mu\text{g/ml}$ はVREの可能性が考えられます。
- ・特に、血液や無菌部位から*E. faecium*が分離し、かつ、MIC値 $\geq 4 \mu\text{g/ml}$ ではVREの可能性が高いため、*van*遺伝子検査を行ってください。
- ・無菌部位以外で、MIC = $4 \mu\text{g/ml}$ の場合は、検査費用を考えると、感染症があること、抗菌薬の効きが悪いときに*van*遺伝子検査を行う選択もあります。感染症法ではVREはVCMのMIC $16 \mu\text{g/ml}$ ですが、MIC $\geq 8 \mu\text{g/ml}$ はVREとして対応したほうがいいでしょう。(回答 伊藤先生)

MIC 値の低い VRE の確認手順



VCMのMICの低いvanB遺伝子保有*Enterococcus faecium*の培養検査、検査結果の判断については、以下のサイトより資料をダウンロード出来ます
 KRICT (<http://www.krict.org>)
 ⇒地域感染対策

NPO法人KRICTからの提言

「北九州で増加しているバンコマイシンのMICの低いvanB遺伝子保有*Enterococcus faecium*について」